

4 区ビジョン基本方針

区ビジョン基本方針 北区

区 の 将 来 像

豊かな自然の中で人やものが交流する，安全で活力あふれるまち

区 の 担 う 役 割

新潟東港を中心とした国際物流拠点機能及び新潟西港や空港との連携による国際交流拠点機能を担います。

新潟東港周辺を中心として，工業の拠点機能を担います。

豊かな自然環境と安全で快適な居住環境が調和し，やすらぎと潤いのある空間を提供する機能を担います。

目 指 す 区 の す が た

新潟東港を中心とした物流と工業のまち

新潟東港の港湾機能と恵まれた交通体系を活かして，北東アジアを視野に入れた，新潟東港背後地への物流関連企業の誘致を図ることで物流拠点のまちを目指します。

新潟東港周辺に工業集積を進め，雇用の場を創出することで活力のあるまちを目指します。

多様な農水産物を供給するまち

稲作をはじめ，砂丘園芸・ハウス園芸などの農業や沿岸漁業で，多様な農水産物を供給するまちを目指します。

自然に恵まれた安全で快適な居住環境のまち

福島潟をはじめ，阿賀野川などの河川，海岸線の白砂青松や田園風景など，豊かな自然環境や水辺空間を保全・活用することで，人と自然が共生し，市民が憩えるまちを目指します。

地域の防災・防犯機能を充実し，地域住民が安心できる安全なまちを目指します。

交通体系のさらなる充実を図ることにより，利便性の高いまちを目指します。

やすらぎと潤いのあるまち

地域・家庭・学校の連携により，自分の力に自信をもち，地域を誇れる子どもを育てるまちを目指します。

市民一人ひとりが生涯を通して自ら学ぶことで，豊かな心と生きがいを持ち，社会参画できるまちを目指します。

地域における支え合いを大切にし，子どもから高齢者までが安心して暮らせるまちを目指します。

まちづくりに向けた施策の方向

(1) 国際物流拠点機能などの充実

地域間交通体系のさらなる充実と企業誘致

各地域間交流を支える幹線道路の整備を進めるとともに、物流関連企業の誘致を図ることで、それぞれの地域の担う役割・機能を有機的に結びつけ、人やものの交流を拡大させます。

港湾機能の整備

日本海側を代表する国際物流拠点港湾，エネルギー供給基地としての機能が発揮できるよう，新潟東港の港湾施設の整備及び港湾機能の拡充を促進し，国際航路網の充実を図ります。

工業集積の促進と雇用の拡大

新潟東港背後地の工業団地に多様な企業の誘致を進め，工業集積を促進するとともに，雇用の拡大を図ります。

(2) 魅力ある農水産業の推進

生産者と消費者の交流促進による地場農水産物の消費拡大

生産者と消費者が近いことや地元商店・市の活用により，新鮮で安心・安全な農水産物の地産地消を進めます。

生産者と消費者の交流を促進し，食育や健康づくりにつながる環境づくりを進めます。

南浜地区において小型船だまりの整備を進め，安全な漁業活動の実現を図ります。

(3) 豊かな自然環境の保全と活用

水と緑の保全と活用

福島潟など豊かな水辺や緑に囲まれた環境を整備・保全し，安全で安心して暮らせる，緑あふれる多目的な空間づくりを進め，市民生活に潤いをもたらすとともに，環境意識の高揚などを図ります。

(4) 安全で快適な居住環境づくり

防災・防犯機能の強化

水害や地震などの自然災害から住民の生命・財産を守るため，コミュニティの地域防災機能の向上を促進します。

国際化の進行に対応した防犯対策や交流・相互理解を進めます。

交通体系の整備充実

地域内を連絡する道路の充実を図ることでの交通渋滞の緩和や，鉄道やバスなどの公共交通の利便性を向上させることで，地域の一体感の醸成を図ります。

(5) 学習環境の整備と福祉のまちづくり

学習環境の整備

福島潟民俗資料や地域の歴史資料などを収蔵展示する施設を整備し、地域の文化遺産を地域の誇りとして継承していくとともに、国内外に広く発信していきます。

地域の独自文化の継承と創造に向けた市民活動の場として、文化交流の拠点となる文化会館の整備を進め、高度化する市民文化ニーズへの対応を図ります。

区の生涯・競技スポーツの拠点となる多目的運動広場を整備し、既存の体育施設と連携を図りながら、いつでも気軽にスポーツ活動が楽しめる環境づくりを進めます。

福祉のまちづくり

地域コミュニティの結びつきを強化・充実することなどで、地域における支え合いの仕組みづくりを促進し、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

新潟医療福祉大学を福祉教育の拠点と位置づけて、市民参加型の福祉のまちづくりを進めます。

区ビジョン基本方針 東区

区の将来像

暮らしと産業の調和を活かした，世界と共生するまち

区の担う役割

都心に近接する地理的条件を活かした快適な居住地としての役割を担います。
空港と港湾を有する区として，国内各地や海外とのネットワークの拠点となる機能を担います。
大規模な重工業から軽工業まで大小ある工場により，市内製造業の拠点としての機能を担います。

目指す区のすがた

安心・快適で利便性の高いまち

地域のマンパワーや人的ネットワークを充実させ，福祉，防犯・防災，環境保全など地域が抱える課題に取り組むことにより，人にやさしく，安心・安全に暮らすことができるまちを目指します。

交通機能のさらなる向上と生活関連環境・施設の充実により，職住近接で利便性の高いまちを目指します。

産業が振興するまち

工場や卸売業と多様な機能・規模の小売店舗がバランスよく配置されるとともに，地産地消の都市近郊型農業も展開される，活気ある産業のまちを目指します。

水と親しみ豊かな自然に囲まれるまち

通船川，栗ノ木川，阿賀野川，信濃川，そして日本海など，豊かな水辺と人々が親しみ，地域の自然環境を大切に作るやすらぎと憩いのあるまちを目指します。

空と海の玄関口のまち

国際航空路線の開設・拡充や空港アクセスの強化とともに，国内外の海上輸送ネットワークを充実することにより，世界への玄関口にふさわしい，人が集まる魅力を備えた拠点性の高いまちを目指します。

まちづくりに向けた施策の方向

(1) 安心していきいき暮らす環境の整備

安心とやさしさの環づくり

区民が行政と共に考え、行動することにより、積極的に地域の環境づくりや防犯・防災に努めていきます。

子育て支援や高齢者の生きがいづくりなどを進め、助け合い支え合う地域づくりを推進します。

個性ある地域文化づくり

地域に伝わる歴史・文化を認識し、継承していくとともに、心の豊かさをはぐくみ、地域の活力につながる文化活動を振興していきます。

体育施設の整備

体育施設の整備や学校などの活用により、市民がスポーツをする機会を増やし、心身の健康と生涯スポーツ社会の実現に向けて取り組みます。

(2) 交通網の整備

幹線道路などの整備

幹線道路の整備や、区役所などの公共施設を利用しやすい公共交通網を整備することで、住民の交通利便性を高めるとともに、ヒト・モノの交流の拡大を図ります。

(3) 遊休地の有効利用

遊休地の整備と有効活用

大規模な工場跡地などの遊休地を、民間の力を活用しながら有効利用することにより、地域の活性化を図ります。

(4) 親しめる水辺などの整備と活用

自然を活かした緑地、公園の整備

通船川の親水護岸整備や栗ノ木川も含めた河川緑地の環境整備など、自然環境を活かした憩いの空間を形成します。

港を活かしたまちづくり

港と緑地を活用することにより、港の風を感じながら余暇を楽しむ、潤いと賑わいの空間を形成します。

(5) 国内外に向けた交通基盤の整備

空港機能の強化, 利用活性化

関連機関などと連携を取りながら, 空港周辺の環境整備や国内外路線の開設・拡充, 取扱貨物量の増加を図るとともに, 利便性を高めるため空港アクセスの強化を図ります。

港湾施設の整備と利用活性化

市の中心部に位置する新潟西港の施設整備や機能強化を進め, 恵まれた地理的優位性や高速交通体系を活かした国内外の海上輸送ネットワークの拡大を図ります。

区ビジョン基本方針 中央区

区の将来像

都心が賑わい、人々が集い交流する水辺のまち

区の担う役割

商業業務や教育、交通、医療、行政など、さまざまな都市機能が集積する区として、本市の力を押し上げ、豊かな市民生活を生み出す役割を担います。

本市の陸の玄関口である新潟駅を中心として、国内外との交流の拠点としての役割を担います。

都心をもつ区として、職住近接の利便性の高い居住地としての役割を担います。

目指す区のすがた

拠点のまち

日本海側の拠点都市の核として、商業業務や教育、交通、医療、行政などのさまざまな都市機能がさらに集積するまちを目指します。

国内外の玄関口である新潟港、新潟駅や高い収容能力をもつ朱鷺メッセやビッグスワンを活用することにより、ヒト・モノ・情報が活発に行き交うまちを目指します。

賑わいのまち

まちなかの緑化や美しい景観づくりに努めるとともに、商店街の活性化を図ることにより、出かけたくなるまち・歩いて暮らせるまちを目指します。

整備された社会基盤などを活かして、土地の高度利用や公共交通の利便性の向上などを行うことにより、まちなかへの回帰を促すなど職住近接型のまちを目指します。

人にやさしい暮らしのまち

進行する少子高齢社会の中で、都心の賑わいをもちながら、子どもからお年よりまで安心・安全に暮らすことのできるまちを目指します。

都市がうるおう水辺のまち

信濃川や鳥屋野潟、日本海の豊かな水辺や緑地を活かし、人々が集い、安らぐことができるまちを目指します。

みなとのまち

北前船の寄港地として、また開港5港の一つとして古くから栄えたみなとまちの文化などを受け継ぎ、多様な交流に培われた文化がかおるまちを目指します。

まちづくりに向けた施策の方向

(1) 都市機能の向上

新潟駅周辺整備及び連続立体交差事業の推進

新潟駅周辺において、鉄道在来線の高架化と併せて、骨格となる道路や駅前広場などを一体的に整備し、都市交通の円滑化や交通結節機能の強化を図ることにより、高齢者、障がい者など、すべての利用者にとって利便性が高く、政令市新潟の陸の玄関口にふさわしい魅力ある都市拠点を形成します。

鳥屋野潟南部開発計画の推進

鳥屋野潟南部を土地利用計画毎にゾーニングし、県立鳥屋野潟スポーツ公園や(仮称)食と花のにいがた交流センターなどの整備により、新たな拠点を形成します。

バス路線の新設など公共交通のアクセス強化により、鳥屋野潟南部地区への交通利便性の向上を図ります。

美咲町地区の整備促進

広域的な行政・業務機能の集積地区として、本市の拠点性を高める新しい市街地の整備を促進するとともに、アクセス道路の整備を推進します。

(2) 水辺の魅力づくり

市民に愛される水辺空間の整備と活用

信濃川両岸の景観やウォーターフロントを活かした緑地の整備を進め、都市の魅力向上を図ります。

都市における貴重な自然空間である鳥屋野潟は、水環境の改善に努め、身近に自然とふれあえる水辺空間を創出します。

港湾海岸の優れた景観や自然環境を活かし、海洋性レクリエーション需要に対応した、市民が楽しめる海浜エリアとして整備を図ります。

万代島賑わい空間の創造

みなとまち新潟の特性を活かし、新たな賑わいの空間を形成します。

(3) まちなかの再生

交通利便性の向上

利便性の高いバスなどの公共交通機関網の整備により、誰もが安全で快適に移動できるまちなかの交通環境の創出を図ります。

優良な住まいづくり

土地を高度に利用し、環境に配慮した優良建築物の整備など、まちなか回帰・居住に向けた活動の支援に努める一方で、長期経年マンションの再生や多様なニーズに対応する住宅供給を支援し、都心居住を促進します。

まちなかの活性化の推進

まちなかの活性化を図り，利便性向上とみなとまちの歴史を活かした，歩いて楽しいまちづくりを進めます。

地域の特性を活かした優良な景観の形成

みなとまちとしての歴史が根付くまち並みにふさわしい景観の指針やルールづくりを進め，市民や事業者との協働により，美しいまち並みを形成します。

地域のまちづくり

地域コミュニティの充実を支援し，住む人や訪れる人にやさしいまちづくりを進めます。

区ビジョン基本方針 江南区

区の将来像

緑と調和した，賑わいと安らぎのあるまち

区の担う役割

本市のほぼ中央に位置し，都心部に近接した地理的条件を活かし，副都心機能や流通・商工業機能，快適な居住機能を担います。

優良農地を活かした都市近郊型農業による食料供給機能を担うとともに，多様な生産・販売による生産者と消費者の交流機能を担います。

目指す区のすがた

交通の利便性を活かし交流するまち

日本海東北自動車道，磐越自動車道をはじめ，国道 49 号・403 号，主要な県道などの広域幹線道路の結節点や JR 信越本線を有する交通の要衝に位置することから，大規模商業施設や福祉文教施設などを活用したヒト・モノが交流するまちを目指します。

豊かな自然と都市機能の調和が取れたまち

田園や信濃川・阿賀野川などの恵まれた自然環境の保全に努め，豊かな自然と都市機能をもつ利便性を兼ね備えた，快適な居住環境の整ったまちを目指します。

人とふれあう安心のまち

だれもが住み慣れた地域で安心して暮らせるように，「助け合い」「支え合う」人と人とのふれあいを大切にするまちを目指します。

特色ある農産物を生産するまち

生産者と消費者の積極的な交流を図るとともに，稲作をはじめ，野菜，果樹・花きなどの都市近郊型農業を振興し，付加価値の高い安心・安全な農産物を供給するまちを目指します。

まちづくりに向けた施策の方向

(1) 交通の利便性を活かす

道路交通網の整備

幹線道路や区域内の公共交通網の整備により、交通の利便性向上や地域間交流の拡大を図ります。

亀田駅周辺の整備

JR 亀田駅の周辺整備を行うことにより、地域の活性化を図るとともに、福祉施設や文教施設も含めた交流の拠点を形成します。

鉄道の利便性の向上

二本木地区において、JR 新駅の設置や、(仮称)新潟中央環状道路とリンクしたパークアンドライド施設の整備などを含めた、新しいまちづくりに取り組みます。

(2) 憩いの空間づくり

水辺を活かしたやすらぎ空間の整備

阿賀野川・小阿賀野川や北山池などの水辺を活用し、四季折々の草花を楽しむことのできる施設整備に取り組みます。

農業水利施設などを地域の宝物として活かし、保全し活用するために、関係団体・住民・行政が一緒になって計画・整備などを行い、憩いの水辺空間づくりを進めます。

(3) 歴史・文化・スポーツの振興

文化・学習施設の整備

文化ホール・生涯学習施設・図書館・郷土資料館などの機能をもつ文化・学習施設を整備し、多様な学習ニーズへの対応を図ります。

スポーツ施設の整備

屋内多目的運動場や武道場などを整備し、生涯スポーツの振興を図ります。

歴史文化遺産の活用

郷土の貴重な歴史・文化施設を活用して、人の交流を進めます。

(4) 安心して暮らせるまちづくり

協働のまちづくり

市民が自主的な地域コミュニティ活動を充実することで、市民と行政が協働し、豊かで安心して暮らせるまちづくりを進めます。

地域で支えあう福祉のまちづくり

地域にある福祉の拠点性を活かし、市民相互のふれあいと支え合いを進めるとともに、市民と行政が連携して、安心して暮らせる福祉のまちづくりを進めます。

(5) 農水産物を通じた交流

生産者と消費者の交流の促進

新潟市中央卸売市場などを利用した農水産物のイベントや農産物の直売所などを通じて、生産者と消費者との交流を促進するとともに、安心・安全な生鮮食料品の安定供給を図ります。

区ビジョン基本方針 秋葉区

区の将来像

花と緑に囲まれた，快適でにぎわいのあるまち

区の担う役割

田園や丘陵に囲まれる豊かな自然環境を活かした良好な居住地としての役割を担います。河川や丘陵などの自然特性，県立植物園や古津八幡山遺跡などを活用した憩いと安らぎを提供する役割を担います。バイオリサーチパーク構想に基づき，バイオ技術研究の拠点形成を進めることにより，産学官地域が連携する学術・研究拠点としての役割を担います。

目指す区のすがた

うるおいのあるまち

区域を潤す信濃川，阿賀野川，小阿賀野川と能代川，緑豊かな里山・丘陵地，そして，これらを優しく包む田園など，恵まれた自然環境は，次世代に引き継ぐべき貴重な財産として保全と活用に努め，人と自然が調和した美しい景観のまちを目指します。

緑の居住環境とやさしさのまち

緑豊かな自然環境の中で，便利で快適に暮らせる居住環境のあるまちを目指します。地域の支え合いの中で，一人ひとりが安心して暮らし続けることができる，やさしさあふれるまちを目指します。

歴史と個性を活かすまち

石油や鉄道のまちとして，固有の歴史ある文化を活かしながら，区民と行政との協働による個性ある交流のまちを目指します。

花のまち

全国屈指の花き・花木の園芸産地としての拠点性を一層高めながら，優良農地を活用し，環境にやさしい安心・安全な農産物の供給を目指します。

生み出すまち

これまで培われてきた産業を育成するとともに，バイオ技術に関する学術・研究の拠点として，産学官地域が連携して新たな可能性を発信するまちを目指します。

まちづくりに向けた施策の方向

(1) 豊かな自然環境の保全と活用

里山の整備

地域の財産である里山の保全に努めながら、市民の憩いの場として広く親しまれる公園の整備を進めるとともに、丘陵地内の各施設との一体的な整備を進め、市民が心身のリフレッシュや、体験・学習・社会参加できる交流の場を提供します。

親水空間の創出

信濃川・阿賀野川などを利用した親水空間の整備を進め、サイクリングロードなどの整備とあわせて、教育やレクリエーション、スポーツを通じた交流を推進します。

(2) 歴史と個性を活かす

歴史遺産の活用

弥生時代から古墳時代への変遷がたどれる「古津八幡山遺跡」の整備を進め、里山と人との関わり、地域の歴史を後世に伝えていきます。

固有資源の活用

石油や鉄道のまち、全国屈指の花き・花木の園芸産地といった地域の資源を活かし、観光交流の推進や農業の振興を図ります。

(3) 市民活動の支援

文化会館の整備

地域固有の文化の継承と創造に向けた市民活動の場として文化会館を整備し、多様化する市民活動を支援します。

スポーツ施設の整備

総合体育館など、生涯スポーツの拠点づくりを進め、健康で豊かなライフステージづくりを応援します。

(4) 便利で快適な暮らし

新津駅周辺地区の整備

新津駅周辺地区での交流促進を図るため、地域活動や地域福祉などの拠点施設や公園・イベント空間などの整備を進めます。

公共交通の利便性の向上

矢代田駅周辺地区の整備やパークアンドライドの推進など、鉄道交通の利便性向上による交通混雑の緩和と環境負荷の軽減に向けた取組を進めます。

地域間交通体系のさらなる充実

各地域間交流を支える幹線道路の整備を進めることで、速やかな一体化を図るとともに、それぞれの地域の担う役割・機能を有機的に結びつけ、ヒト・モノ・情報の交流の拡大を進めます。

(5) 新たな可能性づくり

バイオリサーチパーク構想の推進

産学官地域が連携したバイオリサーチパーク構想を推進し、食・環境・医療・農業などの分野における実践的な研究開発の拠点づくりを進めます。

区ビジョン基本方針 南区

区の将来像

大地の恵みと伝統文化、技がはぐくむうるおいのあるまち

区の担う役割

豊かな自然環境と調和した良好な居住地としての役割を担うとともに、全国を見据えた総合食料基地である本市の一翼や「農」における国際交流拠点の役割を担います。
地域の伝統や観光資源を活かし、観光都市にいがたの一翼を担います。
高速道路などの交通ネットワークを活かした工業地域としての役割を担います。

目指す区のすがた

人にやさしい、ゆとりある居住環境のまち

信濃川と中ノ口川の両河川によってはぐまれる豊かな自然環境と調和した、安心・安全で、人にやさしく、ゆとりある居住環境のあるまちを目指します。

交通の利便性が高いまち

都心や周辺地域へのアクセスの向上や区の公共交通の拠点となる交通結節点の形成を進め、通勤通学者や交通弱者をはじめ、すべての利用者にとって、交通の利便性が高いまちを目指します。

安心・安全な農産物を供給するまち

消費者に信頼される良質で新鮮な農産物の供給を図りながら、環境に配慮した資源循環型農業を確立するとともに、高品質・高付加価値品の栽培を軸に、収益性の高い夢のもてる農業のまちを目指します。

産業の調和したまち

利便性の高い道路交通網を活かした工業地域として、企業誘致を引き続き進め、雇用の拡大、生産性の向上及び高付加価値化を図るとともに、伝統技術に裏打ちされた仏壇や鎌などの生産品を地域ブランドとして高め、地域の基幹産業である農業と併せ、産業が調和したまちを目指します。

歴史的な観光資源にあふれるまち

しろね大凧と歴史の館、重要文化財旧笹川家住宅などの地域にある観光拠点や観光農園、白根大凧合戦や伝統芸能角兵衛獅子などの観光資源を活かし、交流の輪が広がる賑わいのあるまちを目指します。

まちづくりに向けた施策の方向

(1) 安心・安全確保のための基盤整備

治水対策の強化

水害から市民の生命と財産を守るため、中ノ口川、信濃川両河川の堤防の早期整備の促進や排水対策の強化を図ります。

道路・橋梁の整備

交通量の増加が著しい、味方・月潟を通る広域農道の整備や生活道路の整備などにより、市民の交通安全に努めます。

中ノ口川及び信濃川の橋梁を整備し、交通の利便性を高め、市民の往来を盛んにすることにより、区の活性化を図ります。

災害時の体制整備

災害時における避難場所の整備や防災行政無線を活用するなど、総合的な避難・救援対策を進め、市民の安全確保を図ります。

(2) 公共交通の利便性向上

利用しやすいバス交通

都心へのアクセスや定時性の確保など、バス利用者の利便性・快適性の維持・向上を図り、環境にも利用者にもやさしい公共交通の充実を図ります。

(3) 農業を通じた交流拠点の整備

農業体験施設などの整備

(仮称)アグリパーク・国際農業研究センターを整備し、農業技術支援とともに農業体験や地域の農産物の販売などを通じた生産者と消費者との交流を進めます。

(4) 資源循環・環境重視型農業の推進

総合的有機物循環施設の整備

稲わら、もみ殻などの回収から堆肥製造、堆肥散布までの一連の機能をもつ総合的有機物循環施設を整備し、環境にやさしい、資源循環型農業を推進します。

(5) 観光・文化・スポーツ交流の充実

多様な交流の推進と魅力発信

重要文化財旧笹川家住宅，白根大凧合戦，伝統芸能角兵衛獅子，その他地域固有の伝統行事などの魅力を国内外に発信するとともに，スポーツ施設の整備を進めるなど，観光・文化・スポーツ交流の充実を図ります。

区ビジョン基本方針 西区

区の将来像

都市と農村が共生する，うるおいの居住環境と優れた学術環境に育まれるまち

区の担う役割

都市部と農村部が一体となっている区の特性を活かし，都市と農村の相互交流を推進し，田園型政令市のパイロット役を担います。

新潟大学，新潟国際情報大学など，多数の学術研究機関が立地していることから，研究開発機能の中核拠点としての役割を担います。

佐潟・海岸など，豊かな自然環境と幹線道路・鉄道などの交通の利便性の両方を併せもつ地域の特性を活かし，環境に配慮し，自然を満喫できる憩いの場を提供する機能を担うとともに，快適な居住機能を担います。

利便性の高い交通網を活かし，流通関連機能を担います。

目指す区のすがた

すべての区民にやさしいまち

すべての区民が個性・能力を発揮し，安心して生活でき，だれもが暮らしやすいまちを目指します。

都市と農村が共存するまち

本市を代表するブランド農産物を産出するなど，高収益農業を推進します。また，都市と農村がバランスよく共存する，環境にやさしいうるおいのまちを目指します。

学術と文化のまち

産学官民が連携して，地域性を活かした研究を積み重ねることで，本市のまちづくりをより豊かにする有益な情報を発信していくまちを目指します。また，地域のリーダーや未来の担い手である子どもたちなどが育つ，学官の連携を活かした地域特性のある生涯学習活動を進めるまちを目指します。

海辺とラムサールのまち

ラムサール条約湿地である佐潟など，美しい水辺の保全を図りながら，人と自然が豊かにふれあい，やすらぎを感じられるまちを目指します。

夕日の美しい海岸部においては，砂丘地や松林の保全に努めるとともに，マリンスポーツなど海洋性レクリエーションの好適地として海水浴場をはじめとした海浜空間を整備し，都市に調和する自然豊かなまちを目指します。

優れた居住環境のまち

JRや幹線道路などの交通の利便性のさらなる向上を図るほか，環境対策や災害対策を進め，安心して安全で快適に住むことのできるまちを目指します。

まちづくりに向けた施策の方向

(1) すべての区民にやさしいまちづくり

だれもが暮らしやすいまちづくりの推進

区民一人ひとりが協力し合い、障がい者や高齢者なども積極的に社会参加できる、人にやさしい福祉に配慮したまちづくりを進めます。

区の宝である子どもたちの安全を守り、健やかな心を育てる環境づくりを進めます。

(2) 都市と農村の共存

都市部と農村部の交流の推進

安心・安全な地場農産物を、地元消費者に対し積極的に提供する機会の拡大に努め、消費拡大と食育の推進を図ります。また、特色ある農産物や特徴的な景観を活かし、都市と農村との交流を進め、相互理解を深めます。

農産物のブランドイメージの確立

特産のくろさき茶豆などの農産物の振興と地元や全国の消費者への PR に努め、全国ブランド化を図ることにより、区への誇りや愛着を高めます。

商工業の振興

赤塚大根などの地場農産物を使った加工食品の開発や地産地消を進めるとともに、商店街の活性化により、活気のあるまちづくりを進めます。

(3) 学術と文化のまちづくりの推進

学官と地域の連携推進

新潟大学・新潟国際情報大学などとの連携をより一層推進し、学官と地域住民が一体となった生涯学習活動を進めます。

文化財に親しむゾーンづくり

黒埼地区に埋蔵文化財の保管・展示・活用施設を整備します。また、同敷地内に古い民家を活用した民俗資料の展示施設を移築し、埋蔵文化財と民俗資料を一体的に活用して楽しめる空間を創出します。

地域ぐるみの教育活動の推進

地域課題解決に取り組むコミュニティ協議会などの団体、学校・社会教育団体及び住民と連携し、地域ぐるみの教育活動を推進します。

(4) 自然環境の保全と活用

河川・海岸の保全と活用

河川の汚濁防止や水害対策，海岸侵食の防止対策を推進します。また，松くい虫の防除などを実施し，貴重な緑地空間である保安林の機能増進を図ります。

海水浴はもとより，散策，休憩，イベント，レクリエーションの場として，だれもが集い憩える海浜空間の創出を図ります。

佐潟などの保全と活用

ラムサール条約湿地である佐潟の自然環境を計画的に保全し，賢明な利用を図るため，各種調査などを継続実施し，基礎情報の蓄積や市民啓発を促進します。

(5) 快適な住環境

公園の整備

市民が運動やレクリエーションを楽しめる空間として，黒埼地区の運動公園整備や赤塚埋立処分地跡地を利用した総合的な公園整備を行うなど，市民に憩いの場を提供します。

防災拠点の機能強化

平成 19 年度新設の消防署を西区の防災コミュニティの拠点と位置づけ，区民との協働による地域の防災力の強化を推進し，災害の未然防止や災害時における被害の極限防止に取り組みます。

(6) 交通の利便性の向上

交通の利便性の向上

黒埼スマートインターチェンジの常設化に伴う付近道路網の整備による，高速道路の利用促進や，国道 402 号バイパスや地域を南北に貫く道路など，利便性の高い道路の整備を進めます。また，駅周辺整備などにより，鉄道の利便性及び安全性の向上とバス路線とのアクセス機能の向上を図り，環境にやさしい交通体系を整備します。

区役所・病院などの公共施設が利用しやすい，公共交通網の整備を図ります。

区ビジョン基本方針 西蒲区

区の将来像

豊かな自然環境や観光資源に恵まれた、人と人が温かくふれあうまち

区の担う役割

最も広大な農地を有する区として、安心・安全でおいしい食材を生産する総合食料基地である本市の一翼を担います。

豊かな自然環境や観光資源を活かし、観光・レクリエーション機能のほか、都市と農村の交流拠点としての機能を担います。

目指す区のすがた

多様な農水産物を供給するまち

地域の特性である広大な優良農地の効率性や収益性を高め、併せて、日本海に面する区として、高品質で多様な農水産物を供給するとともに、市民農園や体験農園、観光漁業などを通じ、生産者と消費者が交流する農業のまちを目指します。

観光とレクリエーションのまち

越後七浦海岸，角田山，多宝山，弥彦山スカイラインや岩室温泉など，豊かな自然環境や観光資源を保全・活用し，本市における観光・レクリエーションの拠点，そして，交流の拠点となるまちを目指します。

人が行き交う活力あるまち

交通の利便性が高い居住地域として，豊かな自然環境と調和した安全で安心して快適に暮らせる居住環境づくりを進め，定住人口の増加に努めるとともに，高速交通アクセスに恵まれた立地条件を活かし，企業誘致を図り，産業振興を推進することで，新たな雇用の場を創出し，活力のあるまちを目指します。

人と人が温かくふれあうまち

恵まれた自然環境の中で，より健やかで安らかに暮らすことができるよう，地域の中に福祉の心をもつ人材を育てるなど，温かな心のふれあうまちを目指します。

まちづくりに向けた施策の方向

(1) 魅力ある農業の振興

都市と農村の互恵

農業体験型の大規模公園を整備することにより、都市と農村の交流の場や機会を提供し、生産者と消費者が共にはぐくむ魅力ある農業を推進します。

環境にやさしい農業の推進

農業系副産物（稲わらや家畜の糞など）などの循環利用施設を整備し、優良農地を活かした環境にやさしい安心・安全な農産物づくりを推進するとともに、付加価値を付けるための取組に対し、積極的な支援の展開を図ります。

農業生産基盤の整備

ほ場整備や農道整備などにより、高生産性農業基盤を整備し、併せて担い手の育成・確保を図り、米政策改革など農業・農村をめぐる新たな動きに対応できる経営体や営農体制づくりを推進します。

(2) 地場産業の振興

活力ある地場産業の推進

工業団地及び流通団地などの整備を進め、雇用の場を拡大し、活力ある地場産業の振興・発展を図ります。また、森林の保全育成を進め、地場産木材の需要拡大を図ります。

(3) 観光拠点づくり

観光資源の魅力発信

既存観光資源とあわせて新たな観光複合施設を整備することにより、食を含めた観光資源のプロモーションを推進し、地域の魅力を国内外に広くアピールします。

文化資源の保護と活用

重要な文化財の保護と活用を図るための歴史・文化施設を整備し、地域で培ってきた伝統文化の継承や振興に取り組みます。

(4) 交通の利便性の向上

巻潟東インター周辺整備

本市の西の玄関口として北陸自動車道巻潟東インターチェンジ周辺の整備を進め、パークアンドライドを推進することにより、高速バス利用者の利便性・快適性の維持・向上や環境負荷の軽減を図ります。

よりよい道路の整備

本市の地域間交流を支える幹線道路の整備を進め、利便性の向上を図ります。

地域内交通手段の整備

高齢者や学生などの交通弱者対策として、北陸自動車道巻潟東インターチェンジ、駅などの基点や生活に必要な場所までの地域内交通手段の整備を進めます。

駅周辺の整備

越後首根駅、巻駅や岩室駅周辺整備を進め、交通環境の向上を図ります。また、JR 越後線の増便を要望するなど利便性の向上を図ります。

(5) スポーツが楽しめる環境づくり

スポーツ・レクリエーション施設整備

総合体育館の建設や間瀬海岸埋立地の利用の検討など、市民が生涯を通して健康で明るく活力ある生活を送ることができるよう、環境づくりに努めます。

城山運動公園において、第64回国民体育大会ホッケー会場の整備を行うとともに、屋内施設などの整備を進めます。